

2-4. まちづくり講座

取組み方針①：地権者、市民誰もが宜野湾市のまちづくりを学べ、考える事のできる場とする。

取組み方針②：跡地利用のまちづくりにおいて大切な事は何かを学び、まちづくりへの参画を促すための場とする。

(1) まちづくり講座の企画・開催

1) 開催概要

「日常生活における地域コミュニティから、普天間飛行場跡地のまちづくりに大切な事は何か」を題材として、まちづくり講座を計3回開催した。

また、開催にあたっては、受講者の参加意欲を継続させるために、短期間での集中的な開催を行った。

2) 開催スケジュール

回数	開催日時	内容	会場
第1回	1月18日(土) 14:00~16:00	対談 ～普天間飛行場跡地返還後の まちづくりで大切な事～	宜野湾市役所別館3階 第一会議室
第2回	2月1日(土) 14:00~16:00	那覇新都心地区 フィールドワーク	那覇新都心地区内外
第3回	2月15日(土) 14:00~16:00	意見交換(ワークショップ)	宜野湾市役所仮設庁舎

3) 実施概要

①第1回

- 開催日時：令和2年1月18日（土）14：00～16：00
- 受講者数：12名（NB ミーティング、若手の会、宜野湾市民等）
- 内 容：普天間飛行場跡地返還後のまちづくりで大切な事
～銘苅新都心自治会における地域コミュニティの形成と取組みを事例として～
- 講 師：前原 信達 様（銘苅新都心自治会会長/那覇市自治会長連合会会長）
池田 孝之 様（琉球大学名誉教授/
NPO 法人沖縄の風景を愛さする会理事長）



写真：第1回まちづくり講座の様子

（対談の概要）

池田氏：普天間飛行場の跡地利用にあたり地域資源を大事にしていく事になると思うが、新都心地区では地域がもともと持っている歴史的資源をどの様に活用しているのか。

前原氏：地域で自分たちの宝をどう発見できるかが重要で、そのためには地域の歴史を勉強する事からはじめる。そうすると地域の財産が見えてくる。そしてそれを地域の中で学習し、子どもたちに教え伝えていく取組みをしている。

池田氏：地域での様々な取組みの企画、運営はすべて自治会で行っているのか。

前原氏：最初の立ち上げは自治会で行い、次からは実行委員会による実施とする等続ける仕組みをつくっている。また、学校を巻き込んだり、専門の方を招いて実施する等一緒になって取り組んでいる。

池田氏：当時の地権者が地域にはどのくらいの割合いるのか。跡地利用を考えてきた地権者がコミュニティの中心になっているのか。

前原氏：地権者がどのくらいの割合で住んでいるかは分からないが、小学校の生徒の苗字を見ると、大体3割が県外の苗字で7割が沖縄の苗字である。そのうち、銘苅地域に元々多い苗字は1割程度である。地域のコミュニティが立ち上がるとき、知らない人同士では立ち上がらない。はじめはもともと土地を持っている

地域の人たち、特に 30 代～40 代の人たちが中心となってきっかけをつくり、そこに新しい人や関心のある人が加わるかたちでつくられた。

池田氏：小学校区が一つの単位としてまちづくりにとても力を発揮しており、跡地利用において小学校区の設定もしっかり計画すべきと感じる。地域に立地する企業はコミュニティづくりにどのように参加しているのか。

前原氏：コミュニティづくりに関して企業や事業所をいかに巻き込むかは非常に重要で、新都心地区では地区全体を対象とする通り会に参加しており、地区全体の様々な活動に協力する等複合的につながっている。コミュニティは学校を中心につくりやすいため、地域コミュニティが福祉や医療、教育等様々な面での圏域になってくる事を考えると、跡地利用の際にはある程度意識しながら取り組む事が大事だと思う。

池田氏：新都心地区周辺の人たちとの協力関係はどのようになっているのか。

前原氏：新しいまちとその周辺のまちをハード整備によりネットワークを図っても差が出てしまう事は当然の事であり、大切な事は、人の動きや地域コミュニティ等目に見えない部分をどの様につくっていくかの視点が非常に重要となる。

(質疑応答)

参加者：将来のまちづくりがずっと先で、その間に人も、時代も、風景も変わっていく中、今から地域コミュニティをどのようにつくっていけばいいのか。

前原氏：今いる人たちが議論してまとめた事を次の世代に伝え、次の世代はそれをベースに考え方をまとめ、また次の世代に伝えていくように、常に自分たちの先端の考えを伝え続けていく事だと思う。

参加者：返還時期が延び、跡地利用に対して消極的な状況となる場合はどのように取り組めばよいか。

池田氏：地域資源として大事なところを確認し、それを次の世代にずっと引き継いでいく事が大事だと思う。

前原氏：地域資源を見えるところから次の世代にレクチャーしたり、見ながら話をすると思う。地域に住む人たちが地域を使いこなす事がいい地域につながる。使いこなすためには地域をよく知らないといけない。地域の人、団体、支える組織をよく知る事で使いこなす事ができる。

参加者：古いコミュニティと新しいコミュニティはうまくいったのか。

前原氏：跡地周辺の昔からある自治会とは別に立ち上がった。その方が新しい地域の課題にも対応しやすいと思う。ただし、小学校区が一緒のため、これから協働して様々な事に取り組める状況にある。

参加者：今考えたときにあったらよかったものは何か。

前原氏：協働プラザは地域の様々なコミュニティの中心核になる機能となっており、そこに学ぶ場所や集える場所としての図書機能やスペースがあれば良いと考えている。

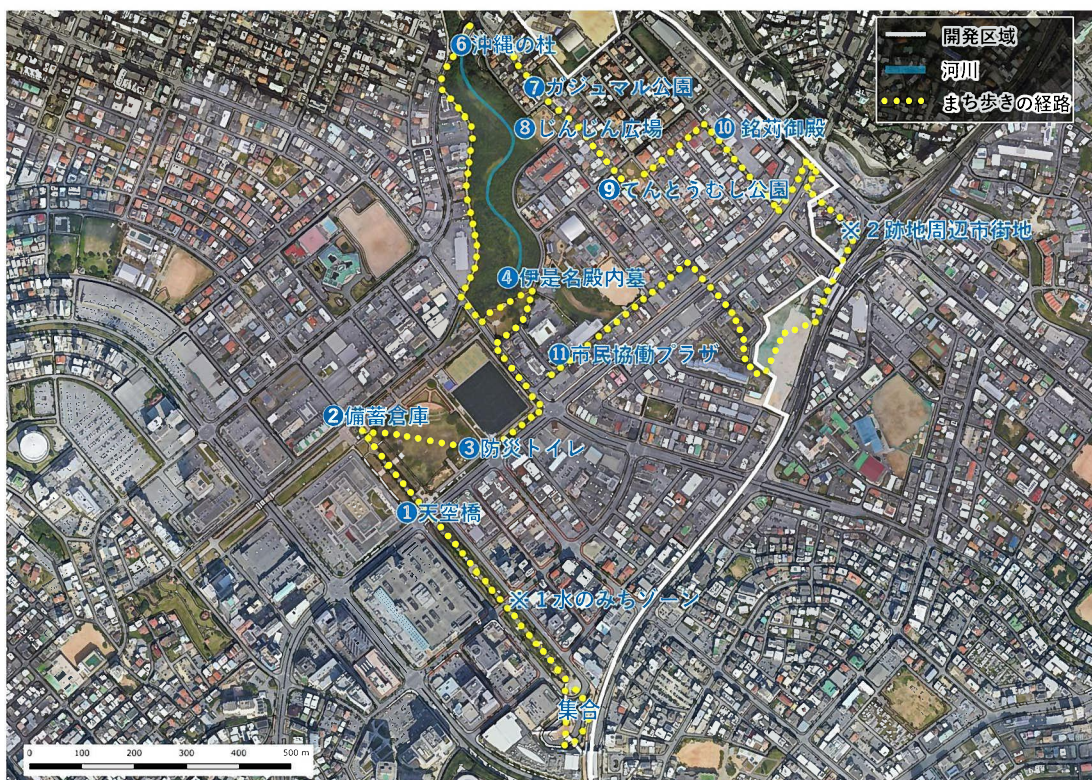
参加者：次の世代につないでいく中で小学校や中学校の先生の役割は重要と感じたがいかがか。

前原氏：小学校の先生と同じように地域も家庭も大事。子どもたちが大きくなったときに計画づくりに参加できるような準備を整えておく必要があり、大切な地域の宝を一緒に巡ったりしておく事が大事である。

②第2回

- 開催日時：令和2年2月1日（土）14：00～16：00
- 受講者数：12名（NB ミーティング、若手の会、宜野湾市民等）
- 内 容：那覇新都心地区フィールドワーク
- 講 師：前原 信達 様（銘苅新都心自治会会長/那覇市自治会長連合会会長）

（フィールドワークのルートと現地写真）





(各地点の概要)

① 天空橋、※1 水のみちゾーン

- ・新都心公園の表玄関となっており、夏の昼間にはミスト噴水、夜にはLED ライトによる水辺空間の演出が行われている。様々な人が食べ物・飲み物を持ち寄り集える場でもあり、夜のピクニック（大人の飲み会）と呼ばれる集まりが不定期に行われている。

② 備蓄倉庫

- ・新都心公園の緑化センター地下倉庫には、10 年間保存できる飲料水やアレルギー対応、嚥下障害や高齢者に対応したバリアフリー食糧を保管している。また9 万回分の簡易トイレや紙おむつ液体ミルクもあり、この備蓄倉庫には最大 11 万食保管できる。

③ 防災トイレ

- ・那覇市で初めて新都心地区に防災トイレを設置した。新都心公園内には 15 基あり、マンホールの蓋を開け、周りをテントで囲み使用するマンホールトイレとなっている。

④伊是名殿内墓（いぜなどうんちばか）

- ・ 18 世紀に建てられた琉球士族・向氏伊是名殿内の墓で、県内最大規模の亀甲墓である。沖縄グスク時代から 18 世紀の長い期間にわたって造られた付近の古墓群と一括し、銘苅墓跡群として国の史跡に指定されている。

⑤シグルクガー

- ・ 昔から銘泉として知られ住民の生活を支えてきた。今は拝所になっており地域の青年会は、道ジュネーの前にシグルクガーの前で奉納エイサーをする。ホテルの観察会も行っており、2 種類のホテルを観光することができる。

⑥沖縄の杜

- ・ 自然を残すためライトの設置を行っておらず、森と池にはオリオオコウモリやキノボリトカゲ、小川にはタウナギなどの貴重生物が生息している。冬場には渡り鳥のオオバンやカイツブリもやってくる緑豊かな場所である。水辺の陸地化がみられ管理が課題となっている。

⑦ガジュマル公園

- ・ 戦前のガジュマルの木が残っている公園。銘苅地域に 2 カ所ある防災マイクのうち 1 カ所が設置されている。

⑧じんじん広場

- ・ 正式名称は「新都心公園」だが、新都心内には公園が多数あり、どの公園を指しているのか分からないため、地域住民で愛称を「じんじん広場」と名付けた。公園の整備も途中段階であったこともあり、住民自ら見積り・デザインし、小学生の描いた絵、書家の文字で園名石を作成した。

⑨てんとうむし公園

- ・ トイレがてんとうむしの形をしている事から名付けられた。地域の祭りが行われており、500 名程度参加し賑わう。公園内には銘苅新都心自治会事務所があり、使用していない昼間は児童クラブに貸し出し、毎月賃料をもらっている。

⑩銘苅御殿

- ・ 天女と結婚したと言われている銘苅子と銘苅子の子ども佐司笠が祭られている。昼間は自由に参拝することができる。

※2 跡地周辺市街地

- ・ 川を境にして区画整理地区内・外に分かれている。区画整理事業で地権者との調整が図られ、現在の境界となった。地区内外では、整備状況の違いが顕著に表れていた。

⑪市民協働プラザ

- ・建物には那覇市まちづくり協働推進課、協働会、自治会の連合会、文化協会等が入っている。那覇市を拠点とする団体及び個人に有料で、事務室、支援ブースの貸し出しを月 1,500 円で行い、協働によるまちづくりや、社会貢献活動のための市民向け、団体向けの講座も開催している。

③第 3 回

- 開催日時：令和 2 年 2 月 15 日（土）14：00～16：00
- 受講者数：9 名（NB ミーティング、若手の会、宜野湾市民等）
- 内 容：意見交換（ワークショップ）
- 講 師：前原 信達 様（銘苅新都心自治会会長/那覇市自治会長連合会会長）

（概要）

ワークショップ形式で、銘苅新都心地区のまちづくり（地域コミュニティ、地域資源の活用、地域の活動、施設等）について「良いと思った点、工夫できるといった点」について意見を出し合った後、「普天間飛行場返還後のまちづくりで大切な事は何か」について意見交換を行った。

最後に、今年度のまちづくり講座の講師である前原氏より、「良い地域とは？」、「誰がどのようにつくるのか？」、「どのように継続していくのか？」に関して総括がなされた。



写真：第 3 回まちづくり講座の様子

【良いと思った点】

A グループ	B グループ
<u>公園</u> ・小さいものから大規模なものまであった ・公園を活用したイベント・防災対策 ・子供が集まる公園が多くある ・公園の夜の活用（賑わい・交流等、都市公園の在り方が変化してきている） ・公園と文化施設（博物館）の関係 ・てんとうむし公園は自治会の事務所があり平日は学童クラブとして賃料を徴収し、イベント等の場所として使用する等多様な使い方をしている <u>コミュニティ・イベント</u> ・公園と住宅街が一体 ・住宅地と街区公園の関係「祭り」（物理的にも作る過程も） ・周辺企業も含めて人が参加する仕組みがある ・夜のピクニックは人が集まるし子供も安心して行ける ・皆で料理を持ち寄ると新しい出会いがある <u>交通</u> ・循環バスが便利に使える <u>防災</u> ・集う場所の副として、備蓄倉庫や防災トイレがある <u>自然</u> ・風の流れを意識した緑 <u>地形</u> ・平坦地は人や物の動きがスムーズ <u>歴史・文化の保全、継承</u> ・銘苅子の歴史・文化が残されている（地域へ公開、若い人等の勉強になって良い） ・小学校での銘苅子、羽衣伝説の学習・活動（踊り）・継承 ・文化財や自然を大事にしている ・伊是名殿内墓（石積）、ガジュマル、シグルクガーの伝説等歴史を感じる	<u>防災</u> ・備蓄倉庫、防災トイレ等防災機能が考えられている <u>地形</u> ・元々ある地形や自然が残されている <u>歴史・文化の保全、継承</u> ・伊是名殿内は素晴らしい古墳だと感じた

【もっと工夫できるといった点】

A グループ	B グループ
<u>公園</u> ・遊具、日陰が少ない ・公園と文化施設が動線的に裏っぽい ・天空橋のイベントではトイレ不足が問題 <u>交通</u> ・道路が狭く渋滞がひどい ・自転車に乗れるようなまちづくり ・モノレール駅とまちとの関係 <u>自然</u> ・銘苅小学校と沖縄の杜との関係（もっと活用できるのでは） ・沖縄の杜をもっと身近に ・シングルガーをもっと多くの人に見られるように <u>地形</u> ・見晴らしが良いポイントが建物の一部だった ・起伏のある地形を残したほうが良かった ・銘苅と周辺市街地との差があるので一体的にできたら <u>日陰の創出</u> ・天空橋は冬以外は昼間暑くて歩けない	<u>交通</u> ・歩く人中心に歩道を繋げてほしい ・通勤・通学時の交通渋滞が道路の関係（車線が少ない）にある点が残念 <u>施設</u> ・公民館のような機能があちこちにあるのか ・人が座れる（集まれる）場 ・地域コミュニティ+公民館

【普天間飛行場返還後のまちづくりで大切な事】

A グループ	B グループ
<u>安心・安全なまちづくり</u> ・防犯 ・防災公園 ・公園内に緊急（救急）時への備えがあるとよい ・防災時に対応できる機能 ・防犯面の考慮（ライトの設置） ・日が暮れると自然に点くセンサーライトがあれば夜も人が来る ・夜の公園イベントを高層マンションから見る事ができる（公園と住宅との関係） <u>周辺市街地との連携</u> ・道路の配置 ・公園の配置 ・都市機能の配置 ・周辺市街地付近に小さな公園を点在させる	<u>防災</u> ・新都心公園よりも大きな大規模公園（100ha）を作ると防災にも良い ・仮設住宅となる公民館を多く設置する ・避難できる広場 ・トイレ、寝る場所の設置方法、場所 ・紙の仮設住宅等 ・丘側、海側の両方からアクセスできる良さを活かした防災拠点作り <u>施設</u> ・市民協働プラザのような人が気軽に集えるような施設作り ・図書館 ・たまり場となるような空間、施設 <u>交通</u> ・渋滞解消の交通機関

歴史・文化の保全、継承 ・喜友名には拝所が沢山あるが若い人は知らない ので一般公開するとよい ・歴史・自然の残し方、活かし方は市民のアイ デアを反映する 交通 ・車をできるだけ使わなくてよい交通計画（自 転車、緑道、徒歩、日陰） ・鉄軌道の駅の位置は重要	歴史・文化の保全、継承 ・現存しているものの保存・調査 ・重要遺跡等の保存、活用（観光資源） コミュニティ形成の在り方 ・人と人の繋がり、人が集まれる場所の形成 その他 ・県の機能を移す（機能移転）
---	--

【総括】

良い地域づくりのためには、地域を良く知る事（資源・危険な場所・歴史・施設・人を知る事）がベースとなる。

地域を知る事により、地域を使いこなす事ができる。その事により、創造的・個性的なアイデアが浮かんでくる。また、人と人との繋がりができる事で、まず自助力が高まり、共助力が高まってくる。そして自治力が高まり、良い地域がつくられる。

このような地域づくりを継続していくためには、行政の役割としては地域住民に対する学習の場の提供、人材のマッチング、情報提供及び活動の場を提供する事が重要である。

4）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●まちづくりに関する知識の向上について

- ・地域コミュニティがまちづくりにどう活かされているか、また、地域固有の資源をまちづくりに活かす手法等に関して、受講者の知識の向上を図る事ができた。

【今後の課題】

●受講者増に向けた工夫

- ・受講者数は第1回が最も多く、第3回が最も少ない状況であったため、開催間隔や曜日、開始時刻について改めて検討する必要がある。
- ・周知方法として、紙媒体（案内チラシの全自治会配布、公共施設配布）以外に QRコード、専用応募フォームを設けて参加者の受付を行ったが、参加人数が少なかった。また、応募フォームからの応募者は、フォームが宜野湾市 HP への掲載だけであったため、2名という結果であった。応募方法について、人の目を惹きつける工夫が必要である。

●継続的にまちづくりに関わる事のできる仕組みの検討

- ・普天間飛行場跡地利用に対する市民の意識を高めていくためにも、まちづくり講座修了後の、受講者がまちづくりに継続して関わっていけるような仕組みを検討する必要がある。